

# ベトナムインターンシップで学んだ こと

## 小目次

- 1, 始めに
- 2, 9月8日
- 3, 9月9日
- 4, 9月10日
- 5, 9月11日
- 6, まとめ

## 1, 始めに

本レポートでは、9月8日～9月11日までのインターンシップで滞在したベトナムでの報告書である。

## 2, 9月8日

この日はベトナム出発の日で、成田空港に行った。9:50にVN301に乗り、ベトナムへと向かった。13:45にベトナム空港に到着した。

そのままユウワさんの車に乗って、ベカメックスホテルに泊まった。ベトナムの街並みは日本と違うところがあった。一つ目はバイクの多さだ（右写真）。詳しく調べると、2024年の統計では、ベトナム全体の100世帯あたり169台のバイクを所有しており、国民の2人に1人以上がバイクを保有している。また、信号機を見ると、時間が書いており、日本でも同じ形式にすればよいと思った（右写真）また、交通マナーが悪く、救急車が立ち止まっている光景が多々見られた。（写真1）詳しく調べると2024年ではベトナムの交通事故件数が23,484件であるのに対して、日本の交通事故件数は2,663人であり、人口はベトナムは約1億134万人に対して、日本は1億2,380万2千人であるので人口当たりの事故数は11倍違うことが分かった。また道路が整備されているが、建物がまだ建っていない土地が多く、

これから成長する都市であると考えられる。（写真2）

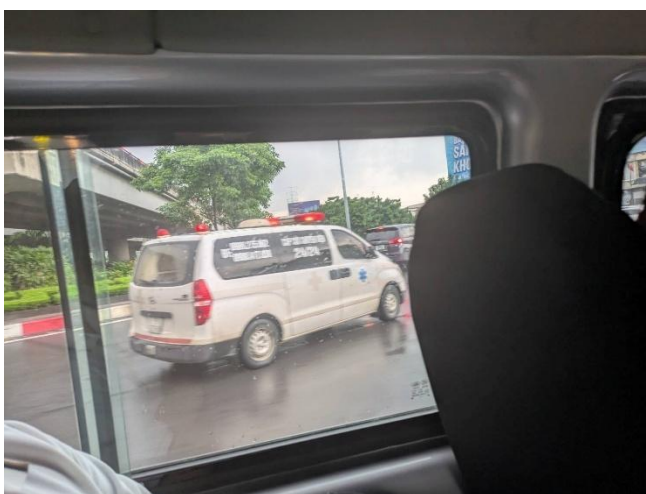


写真1



写真2

3, 9月9日

YVL に行きその後,FCVN, FYMV に行った.

YVL には,ユウワのプラスチック加工工場があった.昔は日本のユウワと比べて,安い労働力を使い,人を使って生産をしていた.しかし,最近ベトナムの賃金が毎年 7%上がっており,機械化が進んでいた.ベトナムはまだまだ労働力が安い国ではあるが,それでも毎年の賃金が上がっており,機械化に移行する方が全体利益が高くなる計算らしい.またベトナム人は日本人と当たり前が違く,毎日会社と同じ時間に行習慣がなく,1ヶ月で辞める率は8割くらいだ.私は将来機械化が進むにつれて,人件費の問題は薄くなっていくんだと推測した.また,次に工場内では日本人が少なく,ほとんどが現地民であるのに,日本語が通じていることに驚いた.日本人のように義務教育をしていないのに理解しているので,GDPは更に高まる.結果として,日本企業が進出する利点は減少するだろうと考えた.工場の中は,技術を保証するための様々な設備があった.温度が一定であり,工場が一体となって製品を生産していた.これがユウワのブランドなのだ.生産を一貫しているので,生産の金型を製作する部門と,金型を設計する部門の連携が素早く取れ,技術の高い製品が生まれていた.ユウワ社員の人の話では,どの設備を機械化すればどのくらいの利益が見込まれるかを計算し,自動化をしているそうだ.そのため,ユウワが不利になる案件や,利益を少なくする商売を止めている.また,機械の上には生産ノルマが書かれており,毎月の月間の売り上げを記録していた.そのような徹底管理のもとで,効率を最大化にしているのだ.社内を回っていると動いていない機械があった.そのため,その分野の機械をいち早く解体し,その他の機械に回すことが,更なる利益に繋がるのではないかと推測した.FYMVは富士フィルムとユウワの合併会社で,コロナの検査キットを作っていた会社だ.その後,プラスチックの中に,富士フィルムの強みである薄く延ばす加工を使い,検査紙を薄く延ばし何重にも重ねることで,血液検査キットを発明していた.私が驚いたのは,商売の面の話である.無料で検査キットを発展途上国に配り,そこからヘルスケアと言えば,富士フィルムというブランドを築こうとする戦略を立てていた.また,富士フィルムは昔写真フィルムで世界一位のシェアを誇っていた会社です.そこから,自分たちの強みを再確認し,医療分野,半導体分野などにシェアを伸ばした.私が驚いたのは,富士フィルムの先を見通し,自分たちの強みを生かすという点だ.その視点を持つことにより,どの時代にも通用する会社となるのだ.と思った.その後行ったFCVNはフジクラ株式会社が作ったベトナム工場である.ユウワベトナムと違い,情報記録用消耗品を主に製造している.ユウワと同じくプラスチック加工技術ではあり,同じく製造ラインが機械化していた.しかし,ユウワベトナムと違い,生産ラインが長く,機械で情報消耗品を作っていた.どちらの会社もプラスチックのエキスパートであるが,どちらの会社も人間に頼るのではなく機械に頼ることでエラーを少なくしていた.夕食では,Happyという場所に訪れた.現地の食事はパクチー風味が多く,あまり美味しくはなかった.ベトナムの料理は日本と比べると,辛いものや,甘いものなど極端で

ある. そのため, 日本人の舌には合わないのではないかと感じた.



(左写真 ユウワベトナム工場)

(下写真 Happy)



#### 4, 9月10日

この日は Hutec 大学に訪問し, その後 Landmark 81 に訪れた. Hutec 大学はホーチミン市にある大学で, ホーチミン市工科大学のことです. 生徒数は約 4 万人で, 私の通っている信州大学では学生数は 10,849 人なので, およそ 4 倍の学生数だ. そこでは, Hutec 大学の学生がプレゼンをしてくれた. 特に印象に残ったのは, ベトナム人が発表してくれた内容で, ベトナム人が日本に留学して, ホウレンソウを学んだということだ. ここで, 日本人とベトナム人の学習環境に差があると感じた. なぜなら日本人にとってホウレンソウは当たり前の価値観で, 義務教育で培われてきたものだからである.

また, 私は発表をする立場ではなかったが, 異文化の中で堂々と発表する同じインターンシップの人たちに感銘を受けた.



(上, 右写真 Hutec 大学)

Landmark 81 とは巨大なショッピングビルのことでその名の通り, 81 階建てである. 展望台まで登り市内を見渡すと, ホーチミンの中心エリアは栄えていた. 自分の認識では, まだまだ発展途上の国で, ビルなど建っていないと思っていたので, 意外だった.

#### 5, 9月11日



VSIP の事務所に行き, JICA のホーチミン事務所を訪れ, ベトナム戦争の博物館に行った. VSIP とはベトナム・シンガポール工業団地のことで, 企業向けの土地のレンタルやレンタル工場の事業を手掛けている. 私が印象的だったのは, 土地をどのような基準で買っているのかということである. 一番は国が戦争しないかどうか? 二番目が, 国が成長するかどうか? である. 二軸に当てはまり, 尚且つ先を見通して土地を買っていることは衝撃だった. そのため, 世界史を学ぶ意義や, 世界情勢を理解することの大切さを知ることが出来た. (右写真) JICA とは独立行政法人国際協力機構のことで, 途上国に対し, 道路や鉄道支援を行う機関だ. 話を聞いて印象的だったのが, ベトナム人向けの経営塾のお話だ. ベトナムには, 日本のように経営のノウハウを持った人がまだおらず, 経営の仕方を学ぶ塾を JICA が運営しているそう. 日本独自の経営のやり方をベトナムに持っていくことにより, 企業が更なる発展の仕方が視野に見えてくる. また, 現地の会社通しがつながり合ういい機会になっているそう. 最後に訪れたのは, ベトナム戦争の博物館である. 私は, ベトナム戦争の惨劇についてひどく心を痛めた. アメリカ人が使用したエージェント・オレンジという枯れ葉剤は, 食料を枯れさせ, 子孫に奇形種をもたらしした. また, ベトナム人口の約 13 分の 1 の人が亡くなり, 使用した爆弾の総量は第二次世界大戦をも凌駕すると推定された. 歴史を学ぶにあたって, 重要なのは今後の世界にどう生かすかである. 重要なのは, 他者の意見を理解し合うことだ. 共産主義, 社会主義のどちらの意見も納得し合うことが大事だ.



## 6, まとめ

私は今回のベトナムインターンシップで数多くの学びを発見できた. 異文化理解の重要性, 国際協力の意義, そして歴史から学ぶ教訓の大切さを深く理解することができた. ベトナムの急速な発展と課題を目の当たりにし, グローバルな視点を持つことの重要性を実感した貴重な体験であった. また, 貴重な経験をさせていただき, 関係者各位にお礼申し上げます.

